

第3期中期目標・第4期中期目標（素案）について

第3期	第4期（素案）	第4期の考え方等
<p>（基本的な目標）</p> <p>公立大学法人山口県立大学（以下「法人」という。）は、大学を設置し、及び管理することにより、地域における知の拠点として、住民の健康の増進及び個性豊かな地域文化の進展に資する専門の学術を深く教授研究するとともに、高度な知識及び技能を有する人材の育成並びに研究成果の社会への還元による地域貢献活動を積極的に展開し、もって人々が生き生きと暮らす社会の形成に資することを目的とする。</p> <p>第3期中期目標期間においては、「人口減少」を背景にした「地方創生の必要性の高まり」のほか、「急速な技術革新」、「グローバル化の進展」などの時代の変化を踏まえつつ、地域の実情に応じて、ニーズに的確かつ迅速に対応できる「地域貢献型大学」として、これまでの成果を更に発展させるとともに、全国に誇れる新たな取組にも積極的に挑戦することにより、県民や地域社会の期待に応え、地域を牽引していくことを目指して、次のとおり中期目標を定める。</p> <p>第1 中期目標の期間 中期目標の期間は、平成30年4月1日から平成36年3月31日までの6年間とする。</p>	<p>（基本的な目標）</p> <p>公立大学法人山口県立大学（以下「法人」という。）は、大学を設置し、及び管理することにより、地域における知の拠点として、住民の健康の増進及び個性豊かな地域文化の進展に資する専門の学術を深く教授研究するとともに、高度な知識及び技能を有する人材の育成並びに研究成果の社会への還元による地域貢献活動を積極的に展開し、もって人々が生き生きと暮らす社会の形成に資することを目的とする。</p> <p><u>第4期中期目標期間においては、人口減少・少子高齢化の進行やグローバル化の進展、社会全体のデジタル化など、社会の状況や地域のニーズが大きく変化していることを踏まえつつ、大学改革に取り組み、地域における共創の拠点として、産業界、行政、高等学校及び他大学等との連携を一層強化しながら、地域と共に未来を創る、地域に欠くことのできない「地域貢献型大学」としての存在感を高めていくことを目指して、次のとおり中期目標を定める。</u></p> <p>第1 中期目標の期間 中期目標の期間は、令和6年4月1日から令和12年3月31日までの6年間とする。</p>	<p>・ 法人の設立目的（定款第1条）を第1期、第2期、第3期と同様に記述</p> <p>・ 第4期で何を指すかを記述</p> <p>・ 第1期は、仕組みづくりを重点課題に設定</p> <p>・ 第2期は、具体的な成果を要請</p> <p>・ 第3期は、地域を牽引していくことを要請</p> <p>・ 第4期は、地域と共に未来を創ることを要請 ➤ 着実な「将来構想」の推進</p>

第2 教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

人と人の関わりを重視した教育研究を行う大学として、住民の健康の増進や個性豊かな地域文化の進展に資する高い教養と専門的能力を有する人材を育成するため、これまで進めてきた取組も含め、PDCAサイクルを展開することにより、学生ニーズも踏まえた特色ある教育の更なる推進を図る。

また、地域を牽引する「地域貢献型大学」として、地域や時代のニーズに即した人材を育成するため、産学公の緊密な連携の下、真に地域が必要とする人材の育成に向けた教育カリキュラムの構築について全学的に進める。

一方で、大学教育の質の保証・向上を図るため、既存の教育プログラムにとらわれることなく、学生の学修の視点に立った教育プログラムとなるよう、必要な改善に不断に取り組む。

第2 教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

人と人の関わりを重視した上で、社会情勢の変化や地域のニーズを踏まえた大学改革に取り組み、人口減少の克服や地方創生の実現に向けて貢献するため、地域におけるグローバル化の進展や社会全体のデジタル化、子ども・子育て支援に係る教育の推進を図る。

特に、デジタル化への対応については、国際文化学部において、専門的な人材の育成に取り組むとともに、社会福祉学部及び看護栄養学部においても専門分野でデータサイエンスを応用するなど、全学的な取組を図る。

また、子ども・子育て支援については、子ども家庭福祉問題に対応するセンター的機能や県内の幼稚園教諭・保育士の育成・確保に向けた取組の充実に努める。

次に、大学施設を共創の拠点とし、産業界や行政、県内大学等との連携の一層の強化を図り、地域と共に未来を創る「地域貢献型大学」として、地域や時代のニーズに即した人材を育成するため、真に地域が必要とする人材の育成に向けた教育を推進する。

さらに、大学教育の質の保証・向上を図るため、取組に対するPDCAサイクルを展開するとともに、学修者の視点に立った教育の充実に努める。

- ・ 第3期の目標達成見込み（順調）
- ・ 前段・中段（前半）は、将来構想が掲げる、第4期を見据えた将来構想の内容を要請

- ・ 中段（後半）では、地域と共に未来を創る「地域貢献型大学」として、地域が必要とする人材を育成することを要請

- ・ 後段では、教育の質の保証・向上を図るため、大学の理念を踏まえた、取組の改善（PDCA）と、中教審答申にある「学修者本位への教育への転換」への対応を要請

<p>2 学生への支援に関する目標</p> <p>学生の多様なニーズに適切に対応しつつ、その豊かな人格形成に資する学生生活を支援するため、学業と学園生活の双方にわたる学生支援活動を総合的に推進するとともに、その質の向上を図る。</p> <p>また、学生のより円滑な職業生活への移行に資するため、入学時から卒業時に至るまでの間において、自らの職業観、勤労観を培い、社会人、職業人として必要な資質能力を形成していくことができるよう、教育課程内外にわたって支援する仕組みを整備する。</p> <p>3 研究に関する目標</p> <p>大学の研究水準の維持向上を図るため、大学の教育研究能力の源泉となる教員の研究業績の蓄積とその成果の発信の取組を確実かつ継続的に行うほか、科学研究費補助金等の申請を積極的に行う。</p> <p>また、研究を通じて地域における諸課題が解決できるよう、地域と連携した研究システムの構築を図る。</p>	<p>2 学生への支援に関する目標</p> <p>学生の多様なニーズに適切に対応しつつ、その豊かな人格形成に資する学生生活を支援するため、学業と学園生活の双方にわたる学生支援活動や環境整備を総合的に推進するとともに、その質の向上を図る。</p> <p>また、学生のより円滑な職業生活への移行に資するため、入学時から卒業時に至るまでの間において、自らの職業観、勤労観を培い、社会人、職業人として必要な資質能力を形成していくことができるよう、教育課程内外にわたって支援するとともに、<u>県内定着に向けた学生支援を強化する。</u></p> <p>3 研究に関する目標</p> <p>大学の研究水準の維持向上を図るため、大学の教育研究能力の源泉となる教員の研究業績の蓄積とその成果の発信の取組を確実かつ継続的に行う。</p> <p><u>また、科学研究費補助金等の外部資金を獲得するため、特色ある研究創作活動や地域社会に貢献する研究活動を推進するとともに、その成果の対外的なPR等を積極的に行い、次の研究と地域貢献につながる好循環を図る。</u></p> <p><u>なお、研究を通じて地域における諸課題が解決できるよう、地域と連携した研究システムの継続と活用による研究の量と質の向上を図る。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第3期の目標達成見込み（概ね順調） ・ 前段は、これまでの取組を継承するが、環境改善に向けた学生支援も要請 《理由》 学生ニーズは、「経済状況」、「障害等の有無」、「文化的背景」等多様であり、時代に合わせ、変化していくことから、これらのニーズに応えるため、PDCAサイクルによる対応が必要であり、継続的な取組としての強化を図るとともに、学生生活の基盤となるような環境整備を要請 ・ 後段は、これまでの取組を継承するが、県内定着に向けた学生支援の強化を要請 《理由》 近年重要視されている「キャリア教育」について、幅広い支援について要請 ・ 第3期の目標達成見込み（概ね順調） ・ 前段は、これまでの取組を継承する。 《理由》 大学の研究能力の源泉となる各種研究業績の蓄積とその成果の発信といった、原点に立った継続的な取組を要請 ・ 中段は、研究の成果が次の研究につながる呼び水となるような好循環をめざす取組を要請 ・ 後段は、地域の視点に立った研究の仕組み（システム）の継続と、これを活かした研究の量と質の向上を図ることを要請
---	--	---

<p>4 地域貢献に関する目標</p> <p>地域における「知の拠点」として、県民の健康の増進及び個性豊かな地域文化の進展に資するため、教職協働体制の下、産学公とも緊密に連携しながら、地域のニーズに即した人材を育成し、県内定着を図るとともに、共同研究・受託研究等の取組を推進し、その成果を着実に地域に還元する。</p> <p>また、県内唯一の「県立」大学として、県の政策形成や地域の諸課題解決に向けたシンクタンク機能の強化を図る。</p> <p>更には、社会人の学び直しの重要性の高まりなども勘案し、ライフステージに応じた県民の生涯学習機会の提供や県民と学生が世代に関係なく共に学び交流できる場を提供するなど、引き続き「県民との連携・交流の取組」を着実に推進する。</p>	<p>4 地域貢献に関する目標</p> <p>地域における「知の拠点」として、県民の健康の増進及び個性豊かな地域文化の進展に資するため、教職協働体制の下、産学公で緊密に連携しながら、<u>教育活動を行い、地域のニーズに即した人材を育成し、県内定着を図るとともに、共同研究・受託研究等の取組を推進し、その成果を着実に地域に還元するなど、地域・企業等との共創を推進する。</u></p> <p>また、県内唯一の「県立」大学として、県の政策形成や地域の諸課題解決に向けたシンクタンク機能の強化を図る。</p> <p><u>さらに、社会人の学び直しなど、生涯にわたる学習の機会を確保するため、地域が求める生涯学習、社会人のリカレント教育やリスキリング教育の機会を創出することで、地域や企業で活躍する人材の後押しなどを図る。</u></p> <p>5 <u>高大連携の推進や学びの多様化への対応</u></p> <p><u>高校における出前講座や入試説明会等の充実に加え、入学試験における評価の仕組みや、附属高校等の県内高校との着実な連携などにより、高大連携の一層の推進を図る。</u></p> <p><u>また、社会人を対象とした大学院における魅力ある履修証明プログラムの開設等を図る。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第3期の目標達成見込み（概ね順調） ・ 前段は、これまでの取組を継承する。 ・ 取組に係るキーワードは、①地域の発展を担う人材の育成、②シンクタンク機能の発揮の2つ。 ・ 後段は、中教審（「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」H30.11）にある、「社会人、留学生などの多様な学生を積極的に受け入れる」ことへの対応を要請 ・ 新設 ・ 将来構想が掲げる、第4期を見据えた将来構想の内容を要請 ・ 高大連携・高大接続と入学前教育の充実に向けた具体的な取組を要請
--	---	--

第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標

大学運営の一層の効率化を図るため、理事長及び学長を中心とした組織体制の下、ガバナンスの強化を推進する。

ガバナンスの強化に当たっては、組織体制の見直しや事務等の合理化、財政的基盤の強化などの取組のほか、教職員研修の取組を更に充実させることにより、教職員の職能開発を推進し、ひいては大学組織全体の業務遂行能力の底上げを図る。

また、大学情報の発信については、魅力ある大学づくりを進める上で重要なことから、時代の変化に合わせ、新たな情報媒体も活用した戦略性の高い取組となるように努める。

第4 財務内容の改善に関する目標

大学の財政的基盤については、産学連携による研究費の確保や寄附講座など、自主財源の拡大も含め、その充実に向けた取組を推進する。

また、経費の支出については、不断の努力により抑制を図るとともに、資産の効率的な活用に努める。

第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標

大学運営の改善と効率化を図るため、大学経営 IR 等に基づく質の保証や仕組みの充実・強化を推進するため、大学 DX や大学経営 IR の推進に当たっては、組織体制の強化など、戦略的、効率的、効果的な取組の推進を図る。

また、教育研究を充実させるため、教職協働活動や会計事務の改善と効率化に取り組むとともに、必要な教職員の確保、育成、評価の戦略的な実践を図る。

さらに、事務等の合理化、財政的基盤の強化、大学情報の積極的な発信に継続して取り組むほか、特色ある教育研究活動を充実するための大学間連携や、大学の各種活動の発展のための同窓会や教育後援会等との連携などの強化を図る。

第4 財務内容の改善に関する目標

大学の財政的基盤については、産学連携による研究費の確保や寄附講座など、自主財源の拡大も含め、その充実に向けた取組を推進する。

また、予算編成については、これまでの予算の執行状況を踏まえつつ、必要となる経費を合理的に見込んだ上で編成し、予算の執行においては、経費支出の抑制や、資産の効率的な活用に努める。

- ・ 第3期の目標達成見込み（概ね順調）
- ・ 前段は、第4期では、大学経営 IR 等に基づく質の保証や仕組みの充実・強化を要請

- ・ 中段は、教育研究の充実に向けた、教員と職員の協働活動や会計事務の改善と、教員と職員の育成等について言及

- ・ 後段は、これまでの事務等の合理化や財政基盤の強化や大学の情報発信について言及しつつ、特色ある教育研究活動や大学の各種活動を強化するよう言及

- ・ 第3期の目標達成見込み（概ね順調）

- ・ これまでの取組を継承する。

《理由》

収入の確保と経費の抑制について要請。特に、自主財源の確保に向けては、研究費の拡大を図るための方策について例示

- ・ 第4期への繰り越すことができる積立金が見込めないことや、将来構想の推進に伴う経費の増大が想定されることを踏まえ、適正な規模の予算編成と執行を要請

<p>第5 自己点検、評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標</p> <p>これまで取り組んできた自己点検や外部評価などの結果や学外者の意見が業務運営に適切に反映されているか、改めて検証し、その結果を基に必要な応じた改善を図るとともに、情報公開の一層の徹底を図る。</p> <p>第6 その他業務運営に関する重要目標</p> <p>1 施設設備の整備、活用等に関する目標</p> <p>県の施設整備計画を踏まえ、着実にキャンパスの移転を進めるとともに、引き続き、既存施設設備の適切な維持管理とその有効活用なども図りながら、良好な教育研究環境の確保に努める。</p> <p>2 安全衛生管理に関する目標</p> <p>教育研究活動の円滑な実施に資するため、引き続き、教職員、学生の安全と健康の確保に関する取組を総合的かつ計画的に行い、その水準の向上を図る。</p> <p>3 法令遵守及び危機管理に関する目標</p> <p>法令遵守及び危機管理に資する内部統制の更なる充実・強化に取り組み、その成果を業務運営に反映させる。</p>	<p>第5 自己点検、評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標</p> <p>これまで取り組んできた自己点検や外部評価などの結果や学外者の意見が業務運営に適切に反映されているか、改めて検証し、その結果を基に必要な応じた改善を図るとともに、<u>当該情報の公表</u>を図る。</p> <p>第6 その他業務運営に関する重要目標</p> <p>1 施設設備の整備、活用等に関する目標</p> <p><u>大学の施設が地域における共創の拠点となるよう、施設設備の有効活用を図る。</u></p> <p><u>また、既存の施設設備の適切な維持管理と必要な整備等</u>を行い、良好な教育研究環境の確保に努める。</p> <p>2 安全衛生管理に関する目標</p> <p><u>新型コロナウイルス感染症の拡大防止などの感染症対策など、第3期中期目標期間中の経験を継承するとともに、教育研究活動の円滑な実施に資するため、引き続き、教職員、学生の安全と健康の確保に関する取組を総合的かつ計画的に行い、その水準の向上を図る。</u></p> <p>3 法令遵守及び危機管理に関する目標</p> <p><u>健全な大学運営のための定期的な法令遵守及び現代的で多様なリスクに対応するための危機管理対応の仕組みの更なる充実・強化</u>に取り組み、その成果を業務運営に反映させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第3期の目標達成見込み（概ね順調） ・ これまでの取組を継承するとともに、自己点検や評価等に係る情報の公表を要請 <ul style="list-style-type: none"> ・ 第3期の目標達成見込み（概ね順調） ・ キャンパス移転に伴い整備した施設設備の有効活用と、施設の維持管理など、良好な教育研究環境の確保について要請 <ul style="list-style-type: none"> ・ 第3期の目標達成見込み（概ね順調） ・ これまでの取組を継承する。 <p>《理由》</p> <p>新型コロナウイルス感染症の拡大防止などの感染症対策など、第3期に経験したことを継承するなど、第3期での掲げた取組の継続を要請</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第3期の目標達成見込み（概ね順調） ・ これまでの取組を継承する。 <p>《理由》</p> <p>健全な大学運営と多様なリスクに対応できる取組を継続</p>
---	--	--